

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和3年度9月号

○ 概要

- (1) 令和3年9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,290億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.9%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,703円（伸び率+0.4%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,638億円（伸び率+6.8%）薬剤料が4,639億円（伸び率+2.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が923億円（伸び率+0.2%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,734円（伸び率▲1.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.74種類（伸び率▲0.1%）、28.3日（伸び率+1.3%）、74円（伸び率▲2.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,717億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+88億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の672億円（伸び幅+44億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+51億円（総額439億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,717 億円 (+88 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(672 億円)	21 循環器官用薬 (619 億円)	11 中枢神経系用薬 (577 億円)
0歳以上 5歳未満	16.1 億円 (+0.0 億円)	44 アレルギー用薬 (6.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.4 億円)	61 抗生物質製剤 (2.0 億円)
5歳以上 15歳未満	71.4 億円 (+4.9 億円)	44 アレルギー用薬 (26.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (22.5 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.3 億円)
15歳以上 65歳未満	1,325 億円 (+44 億円)	11 中枢神経系用薬 (277 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(254 億円)	21 循環器官用薬 (189 億円)
65歳以上 75歳未満	899 億円 (+30 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(195 億円)	21 循環器官用薬 (170 億円)	42 腫瘍用薬 (142 億円)
75歳以上	1,405 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (257 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(217 億円)	11 中枢神経系用薬 (183 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,703円（伸び率+0.4%）で、最も高かったのは高知県（11,953円（伸び率+2.3%））、最も低かったのは佐賀県（8,239円（伸び率+1.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+2.3%）、最も低かったのは岐阜県（伸び率▲1.3%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	81.6 %	+0.4 %
薬剤料ベース	19.9 %	▲0.5 %
後発品調剤率	77.7 %	+1.4 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.1 %	+1.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.2 %	+8.3 % (50歳以上 55歳未満)	▲7.1 % (75歳以上 80歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	29.0 % (100歳以上)	11.0 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.6 %	86.4 % (100歳以上)	74.9 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	790 億円 (▲10 億円)	21 循環器官用薬 (236 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (99 億円)
0歳以上 5歳未満	5.3 億円 (+0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (2.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5 億円)	61 抗生物質製剤 (0.4 億円)
5歳以上 15歳未満	12.1 億円 (▲0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (7.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.2 億円)
15歳以上 65歳未満	264 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (59 億円)	23 消化器官用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	191 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)
75歳以上	318 億円 (▲10 億円)	21 循環器官用薬 (97 億円)	11 中枢神経系用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,423 円	1,808 円(北海道)	1,198 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.1%	▲0.7 % (秋田県)	▲5.7 % (長野県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.6 %	89.0 % (沖縄県)	77.9 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	23.4 % (鹿児島県)	17.0 % (京都府)
後発医薬品調剤率	77.7 %	83.7 % (沖縄県)	73.0 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.1 %	66.5 % (沖縄県)	55.0 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。